

平成 21 年度 事業報告書

自 平成 21 年 4 月 1 日

至 平成 22 年 3 月 31 日

財団法人 東京二期会

平成 21 年度 事業報告書

1. オペラ公演の開催

(1) オペラ自主公演

ア. 東京二期会オペラ劇場『蝶々夫人』ジャコモ・プッチーニ作曲（全4回公演）

全3幕 字幕付原語<イタリア語>上演

平成21年10月9日、10日、11日、12日 東京文化会館大ホール

指揮：ジャック・デラコート

演出：栗山昌良

管弦楽：読売日本交響楽団

主催：財団法人東京二期会、読売新聞社、財団法人読売日本交響楽団

協賛：ブラザー工業株式会社

助成：平成21年度文化芸術振興費補助金、東京都芸術文化発信事業

<事業実績>

総評：演出は1957年初演以来『蝶々夫人』を見つめてきたオペラの正統派栗山昌良である。本公演は2003年、2006年の再演ではあるが、演出家が自らの演出を再度繊細に構成し、新演出と同様の新鮮な舞台をもたらした。オーケストラに読売日本交響楽団を起用し、プッチーニ音楽が劇音楽伴奏に陥らないような交響サウンドの充実を図った。指揮者にはウィーンで学んだジャック・デラコートを迎え、オーディションにより選出された若手出演者に氏の経験を舞台芸術として反映させた。チケットの販売活動では新しい試み（プレイベント）も行ったが、期待されたほどの効果はなく、有料入場者数は平均で会場定員の半分に止まり、今後の集客獲得に課題が残った。

入場者数：5,571名 チケット販売枚数：4,549枚

イ. 東京二期会オペラ劇場『カプリッチョ』リヒャルト・シュトラウス作曲（全4回公演）

1幕(2部構成)会話劇 字幕付原語<ドイツ語>上演

平成21年11月20日、21日、22日、23日 日生劇場

指揮：沼尻竜典

演出：ジョエル・ローウェルス

管弦楽：東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

主催：財団法人東京二期会

共催：日生劇場〔公益財団法人ニッセイ文化振興財団〕

協賛：ブラザー工業株式会社

助成：平成21年度文化芸術振興費補助金、財団法人ロームミュージックファンデーション、

財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団、財団法人花王芸術・科学財団、

財団法人朝日新聞文化財団

<事業実績>

総評：日本では上演機会が少ない「会話劇」、リヒャルト・シュトラウス最後の歌劇と言われる本作品。沼尻竜典氏がタクトを振る事もあり、公演前から各新聞に紹介された。その効果が期待されたが、高度な芸術性が必ずしも財政的成功をもたらすとは限らず、チケット販売を伸ばすかの課題は、以前にも益して大きく残されていることを痛感した。当法人では我が国で取り残されていたリヒャルト・シュトラウスのオペラを継続して取り上げ、高い芸術水準をもって上演してきた。今回は日本初演ではないが、ドイツ語圏で実際に活躍した歌手を中心に作品が要求する難度を明確にしたのみならず、深い感銘を聴衆にもたらした。

昨年の2月公演『ワルキューレ』で絶賛された成功を踏まえ、演出をジョエル・ローウェルスに託した。彼は本作品を社会性豊かなオペラへと変貌させたが、作品の読み替えは多くの場合賛否が渦巻くものでもあった。しかしアンケートを見ても高い知識レベルの鑑賞者に恵まれ、的確な演出意図が支持されたと考証できる。8重唱など非常に高度な技術と訓練を要求される音楽も指揮者と歌手により発揮され、オーケストラも見違えるような美しい音楽を奏でた。本公演は東京二期会の芸術が高度に到達した成功例と自負している。

入場者数：3,936名 チケット販売枚数：3,216枚

ウ. 東京二期会オペラ劇場『オテロ』ジュゼッペ・ヴェルディ作曲（全4回公演）

全4幕字幕付原語＜イタリア語＞上演

平成22年2月17日、18日、20日、21日 東京文化会館大ホール

指揮：ロベルト・リッツィ・ブリニョーリ

演出：白井晃

管弦楽：東京都交響楽団

主催：財団法人東京二期会、社団法人日本演奏連盟

協賛：ブラザー工業株式会社

助成：平成21年度文化芸術振興費補助金、2010都民芸術フェスティバル参加公演

＜事業実績＞

総評：NHKイタリア歌劇団、ミラノ・スカラ座等の公演により、日本の聴衆は既に最高の『オテロ』経験を積んでいる。従って目と耳の肥えた観衆に対しては、邦人出演者のみによる『オテロ』を提示するために主役出演者個人の高度の技量は前提ではある。豊富な二期会歌手陣を背景にした全ての出演者の充実と、優れた指揮者が必須であった。指揮者は、今回のオーケストラである東京都交響楽団からヴェルディ後期特有の強靱で雄弁な管弦楽主張を引き出した。また演出家の知名度が比較的高く、演劇系のファンをオペラに動員すべく努力したにも拘らず、その成果は期待したより下回ったのは残念であった。しかし演出は従来のオペラティックな演技を極力排除し、登場人物の内なる精神を際立たせオペラの普遍性を示した成果は評価している。今回の公演は二期会の成熟度を示し、ひいては日本文化の充実ぶりは世界の座標軸にても十分に評価し得るものであると確信する。

入場者数：6,035名 チケット販売枚数：4,734枚

(2) その他のオペラ公演

ア. 二期会ニューウェーブ・オペラ劇場『ウリッセの帰還』（全2回公演）

クラウディオ・モンテヴェルディ作曲、ハンス・ヴェルナー・ヘンツェ編曲

プロローグと2幕 字幕付原語＜イタリア語＞上演 ヘンツェ版による日本初演

平成21年6月6日、7日 北とぴあ さくらホール

指揮：高関健

演出：高岸未朝

管弦楽：東京交響楽団

主催：財団法人東京二期会

共催：財団法人北区文化振興財団、北区

＜事業実績＞

総評：二期会ニューウェーブ・オペラ劇場として今回で3度目の上演である。いずれも将来の有望な歌手に舞台経験を積ませる目的で上演し、実際このニューウェーブ公演を機会に大きく羽ばたいた歌手は数多い。また、これまでもバロックオペラを継続して取り上げてきたが、本作品はモンテヴェルディの傑作のひとつであり、多くの出演者が必要なこと、更に

その出演者には技巧的にも様式的にも決して容易ではない音楽が与えられていること、長大な音楽ゆえに聴衆の集中力が途切れ易いことは、上演難度を高くしたにも拘わらず、歌手はその芸術を体得し表現し見事な舞台に仕上がり成功裡に終了した。

入場者数：1,994名 チケット販売枚数：1,763枚

イ. 佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ 2009『カルメン』 ジョルジュ・ビゼー作曲（全15回公演）

全4幕 字幕付原語＜フランス語＞上演

平成21年6月25日、26日、27日、28日、30日、

7月1日、3日、4日、5日

兵庫県立芸術文化センター大ホール

平成21年7月17日、18日、19日、20日

東京文化会館大ホール

平成21年7月25日、26日

愛知県芸術劇場大ホール

指揮：佐渡裕

演出：ジャン＝ルイ・マルティノーティ

管弦楽：兵庫芸術文化センター管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団

主催：日本オペラ連盟、兵庫県立芸術文化センター、財団法人東京二期会、

財団法人愛知県文化振興事業団、兵庫県(兵庫公演)、愛知県芸術文化センター(愛知公演)

支援：文化庁

協賛：ブラザー工業株式会社、サクラ精機株式会社、サクラファインテックジャパン株式会社

助成：平成21年度文化庁舞台芸術振興の先導モデル推進事業、

財団法人地域創造(兵庫公演)、社団法人私的録音補償金管理協会(sarah)、

財団法人花王・科学財団、財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団

後援：在日フランス大使館

＜事業実績＞

総評：日本の3大都市圏における主要なオペラ団体二期会と兵庫県と愛知県との劇場が連携した前例のない共同制作を15公演にわたって実現したばかりでなく、各紙誌における報告記事や批評、テレビにおけるメディア露出を通じて、来場者を越える広範な層にオペラ制作のあり方、共同制作の意義について認知と関心を高めることができた。また文化庁による支援を最大限に活用し、そのメリットを生かした公演として成果を挙げることができた。それは多数の来場者にその成果（芸術的・経済的）を還元することができ、共有・交換されたノウハウは今後も各団体の中で咀嚼・活用されていき、オペラ活動の更なる活性化につながることを期待されることと自負する。

入場者数：30,936名 チケット販売枚数：29,947枚

ウ. びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作公演

『ラ・ボエーム』 ジャコモ・プッチーニ作曲（全4回公演）

全4幕 字幕付原語＜イタリア語＞上演

平成22年3月13日、14日 びわ湖ホール大ホール

平成22年3月27日、28日 神奈川県民ホール大ホール

指揮：沼尻竜典

演出：アンドレアス・ホモキ

管弦楽：京都市交響楽団（びわ湖）、神奈川フィルハーモニー管弦楽団（神奈川）

主催：財団法人びわ湖ホール、神奈川県民ホール〔(財)神奈川芸術文化財団〕

共催：財団法人東京二期会

支援：平成21年度文化庁芸術拠点形成事業

<事業実績>

総評：本事業は、文化庁芸術拠点形成事業から支援を受け、びわ湖ホールと神奈川県民ホールの共同制作、当法人は制作を中心に共催として参加した。それぞれの地域の特徴を生かすため、管弦楽や合唱は地元を採用した。ソリストは二期会会員が中心ではあるが、海外で活躍している日本人や関西を中心に活動している歌手も出演した。公演に先立って、ワークショップやプレトークなど、オペラの普及活動も行い質の高いオペラが上演できた。今回でこの3団体の共同制作によるオペラ公演は3回目となり、益々将来にむけてこの手法が広がっていくであろうと実感している。

入場者数：4,896名

2. 演奏会の開催

(1) 自主公演

ア. 全国二期会サミット・コンサートⅢ (1回)

平成21年5月2日 東京文化会館小ホール

主催：全国6二期会

<事業実績>

総評：全国6ヶ所にある二期会が一同に集まりコンサートを行った。原則3年に1度を目安に開催している。今回で3回目。全国の二期会は、独立して経営及び活動を行っている。このコンサートを通じて交流と親睦を高め、全国に二期会を広める。

入場者数：311名 チケット販売枚数：458枚

イ. 二期会サロンコンサート (7回)

平成21年5月20日、7月8日、10月14日、11月18日、平成22年2月10日

平成21年6月10、11日(記念公演) カワイ表参道コンサートサロンパウゼ

<事業実績>

総評：二期会会員と準会員の中からオーディションにより、出演者を選抜している。それぞれのコンサートにテーマを設け、それを生かす歌を選曲、企画している。公演ごとに出演者の個性が楽しめるという好評である。クラシックを身近に感じるコンサートである。

入場者数：780名 チケット販売枚数：839枚

ウ. 二期会新進声楽家のタベ～二期会オペラ研修所第52期修了生・成績優秀者による (1回)

平成21年6月3日 東京文化会館小ホール

<事業実績>

総評：二期会オペラ研修所を優秀な成績で修了し、かつ二期会会員または準会員に入会した者が出演する。若手歌手のお披露目コンサート。これまでは研修生という身分から、この舞台上でプロのオペラ歌手としてスタートする。

入場者数：575名 チケット販売枚数：614枚

エ. 二期会アフタヌーンコンサート (2回)

平成21年8月1日、平成22年1月11日 二期会会館第1スタジオ

<事業実績>

総評：二期会を支援していただいている賛助会員、愛好会員の皆さまを招待している。二期会会

員と準会員が希望すれば出演することができ、演奏曲も自ら選曲し披露する。また、他のコンサートとの違いは、当日までお客様は出演者も演奏曲も分からない。歌手はクラシック曲に拘わらず、挑戦してみたかった作品を歌うことが出来るなど、一風変わったコンサートである。

入場者数：約 260 名（すべて無料招待）

オ. 二期会サマーコンサート（1回）

平成 21 年 8 月 29 日 北とぴあ さくらホール

主催：財団法人北区文化振興財団、東京都北区、財団法人東京二期会

<事業実績>

総評：北区文化振興財団と北区の協力を経て毎年行われている。馴染みのある曲からオペラアリアまで幅広いプログラムと、出演者もオーディションからの若手とベテランとを組み合わせている。北区区民 300 名を招待するなど、地域に貢献している。

入場者数：703 名 チケット販売枚数：374 枚

カ. 二期会研究会演奏会 駅伝コンサート（1回）

平成 21 年 10 月 31 日 東京文化会館小ホール

<事業実績>

総評：声楽家団体“二期会”には 12 の研究会があり、日ごろから各研究会では切磋琢磨し研鑽を積んでいる。その研究会が一同に会し、成果を発表する演奏会である。各研究会は持ち時間内を自由に企画し披露している。その為、毎回プログラムが変わり変化に富んでいると好評である。演奏時間も 5 時間弱と長い、出入りを自由としている。

入場者数：544 名 チケット販売枚数：571 枚

キ. 二期会クリスタルコンサート（1回）

平成 21 年 11 月 11 日 すみだトリフォニーホール小ホール

<事業実績>

総評：“二期会”にオーディション、推薦、移籍などにより入会した方を出演対象としたコンサート。二期会会員としてのお披露目のコンサート。

入場者数：209 名 チケット販売枚数：204 枚

(2) その他の演奏会

ア. 平成 21 年度文化庁「本物の舞台芸術体験事業」（合唱公演・全 32 回公演）

こどもたちが優れた舞台芸術を鑑賞し、実技指導、ワークショップで共演し、優れた舞台芸術に身近に触れる機会を提供し、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うとともに、コミュニケーション能力の向上を目的とします。

平成 21 年ワークショップ開催校

練馬区立関中学校
目黒区立下目黒小学校
杉並区立松ノ木中学校
西東京市立栄小学校
市川市立大野小学校
練馬区立石神井台小学校

公演開催校

南アルプス市立白根巨摩中学校
練馬区立関中学校
杉並区立松ノ木中学校
目黒区立下目黒小学校
練馬区立石神井台小学校
武蔵野市立関前南小学校

武蔵野市立関前南小学校
葛飾区立南綾瀬小学校
墨田区立言問小学校
旭市立海上中学校
千葉県立幸町第一小学校
千葉県立真砂第二中学校
南アルプス市立白根巨摩中学校
常総市立豊田小学校
五霞町立五霞東小学校
古河市立三和中学校

旭市立海上中学校
千葉県立幸町第一小学校
千葉県立真砂第二中学校
葛飾区立南綾瀬小学校
墨田区立言問小学校
五霞町立五霞東小学校
常総市立豊田小学校
古河市立三和中学校
西東京市立栄小学校
市川市立大野小学校

イ. しらかわ&東京二期会共同プロジェクト～エッセンティア ラ・トラヴィアータ（全2回公演）

平成21年7月10日 エッセンティア ストーリー～物語を歌う

7月15日 エッセンティア コンサート～エッセンスを歌う

会場：三井住友海上しらかわホール（名古屋）

主催：三井住友海上しらかわホール、財団法人東京二期会

特別協賛：ブラザー工業株式会社 協賛：三井住友海上、三井住友海上きらめき生命

入場者数：750名

ウ. 音楽劇請負公演（全2回公演）

“万引きをしない させない 見逃さない 東京キャンペーン”

音楽劇「ダメと言える勇気を持って～絶対に万引きを しない、させない、見逃さない～」

平成21年9月24日 豊島公会堂

主催：警視庁、東京都、全国万引犯罪防止機構

共催：豊島区、東京防犯協会連合会、東京母の会連合会

音楽劇「あいさつは魔法の力」

平成22年3月31日

主催：心の東京革命推進協議会

エ. オペラ講座（全3回公演）

本講座はオペラ入門者からオペラファンまで幅広い方を対象に、新たなオペラの魅力を提供している。カルチャー教室等でありがちなドラマの物語説明のなぞりや映像鑑賞ではなく、全て二期会会員の実演歌唱で楽曲を演奏し、全く上演見込みのないオペラ作品も積極的に取り上げ、オペラのみが持つ多面的な価値を掘り起こしている。講師：青島広志氏。

平成21年4月11日(2回)「もしもロマ族がいなかったら…カルメンって本当にジ××__?～」

平成21年11月3日(1回)「作曲家ってつらいよ 詩人もつらいよ～はじめに詞(ことば)それから音楽??～」

オ. 会員・研究会 リサイタル公演（全20公演）

平成21年

4月10日 イタリア歌曲研究会 XL イタリア近代歌曲の夕べ XXI 旧東京音楽学校奏楽堂

4月24日 バリトン/オペラ訳詞家宮本益光リサイタル 津田ホール

5月17日 東京音楽コンクール入賞者駒井ゆり子ソプラノ・リサイタル 東京文化会館小ホール

6月6日	第七回 日本歌曲研究会演奏会	旧東京音楽学校奏楽堂
6月7日	岩見真佐子ソプラノリサイタル	銀座王子ホール
9月5日	東京音楽コンクール入賞者リサイタル山下牧子リサイタル	東京文化会館小ホール
9月16日	イタリア歌曲研究会 XL I	東京文化会館小ホール
9月23日	ロシア歌曲研究会 第13回定期演奏会	東京文化会館小ホール
9月27日	和澤康代ソプラノリサイタル	銀座王子ホール
9月28日	佐竹由美英米歌曲シリーズ Vol.1	浜離宮朝日ホール
9月29日	松田昌恵ソプラノリサイタル	横浜みなとみらい小ホール
10月27日	松下妙子ソプラノリサイタル	銀座王子ホール
11月2日	第23回 岸本力バス・リサイタル	東京文化会館小ホール
11月14日	ドイツ歌曲研究会演奏会	津田ホール
11月24日	松崎郁未ソプラノリサイタル	銀座王子ホール
11月28日	水口恵子ソプラノリサイタル Vol.6	白寿ホール
12月26日	川本伸子リサイタルー日本歌曲の魅力をつづねて	津田ホール
平成22年		
1月11日	佐竹由美 with N響メンバーによる「至福の時」	紀尾井ホール
3月27日	第22回瀬山詠子独唱会ー傘寿80歳を記念して	東京芸術大学奏楽堂
3月30日	第20回前中榮子ソプラノリサイタル	東京文化会館小ホール

3. オペラ歌手の養成

(1) 二期会オペラ研修所

55期 予科：(在籍数81名程度) 基礎音楽表現、演技表現の修得を目的とする。

54期 本科：(同 81名程度) より高度な音楽表現、演技表現の修得を目的とする。

53期マスタークラス：(同41名程度) オペラ舞台上の総合表現力の修得を目的とする。

(2) 第86回二期会オペラ研修所コンサート

平成21年12月3日(1回) 北とぴあさくらホール

共催：財団法人北区文化振興財団、東京都北区

各期の成績優秀者によるコンサート

<事業報告>

総評：53期を中心に、54期、55期の成績優秀者が、研修の成果を発表するコンサートである。

将来のプロの歌手として経験を積む前に、大きなホールで歌うこと、舞台での立ち振る舞い、お客様への反応などを体験する。それは、単に発表会ではとどまらない経験となる。

出演者は上位成績優秀者と、オーディションにより選抜される。また、このコンサートの意義に賛同していただいた北区文化振興財団の好意により北区区民を招待し、地域に貢献する活動も担っている。

出演者：大網かおり、鹿野浩史、矢口智恵、上原真由美、相川知子、福田祥子、観堂恵理子、安本ゆか、西友加、加藤太朗、古野綾、田崎尚美、南早希子、門間信樹、中村洋美、遠藤千寿子、天野聡絵、角野佳奈子

入場者数：792名 チケット販売枚数：592枚

(3) インターン制度

オペラ制作委員会の管轄下で、オペラ自主公演1演目に対して、1~3名をアンダースタディに採用し、オペラ歌手の実践教育を行う。

<事業報告>

総評：インターン制度とは、研修所を修了した研修生の中から、当法人が主催するオペラ公演にアンダースタディとして参加することができる制度である。アンダースタディに選ばれると、コレペティ稽古を受けることができ、さらに舞台稽古では本役の代わりとして立つこともある。自身の研鑽以外でも、舞台が完成されるまでの貴重な経験とオペラ歌手の実践教育を行う。

研修演目とインターン生：『蝶々夫人』大須賀園枝、志岐かさね
『カプリッチョ』森下美登利、東裕子
『オテロ』菅野敦、千葉裕一

4. オペラに関する国際交流

- ・『蝶々夫人』－指揮者にはウィーンで学んだジャック・デラコート氏を招聘した。氏はニューヨークフィルの定期演奏会に招かれたのを皮切りに、ミュンヘン、ロンドンの歌劇場に登場し世界で活躍している。特にオペラでの活躍が評価され、日本でも新国立劇場や読売日本交響楽団へ定期的に客演している。この公演はオーディションにより選出された若手歌手に、氏の経験を舞台芸術として反映させた。アンケートでは「オーケストラと舞台が一体」と評価の言葉を頂いた。
- ・『カプリッチョ』－昨年の2月公演『ワルキューレ』で絶賛された成功を踏まえ、今回の「会話劇」の演出をジョエル・ローウェルス氏に託した。彼は科学と数学、同時に音楽と美術を学んだ。モネ劇場やザルツブルク音楽祭のアシスタントを経て、オペラ演出のデビューを果たした。氏は本作品を社会性豊かに変貌させ、美しくも悲しい心に染み入るオペラを表現したと評された。
- ・『オテロ』－東京二期会では3度目の登場となる指揮者ロベルト・リッツィ＝ブリニョーリ氏は、今回のオーケストラである東京都交響楽団からヴェルディ後期特有の強靱で雄弁な管弦楽主張を引き出したのみならず、美しい音色をキープし聴衆の耳をそばだたせた。公演アンケートにも、高く評価するものが非常に多かった。氏によってこの公演が二期会の成熟度を示し、日本文化の充実ぶりは世界でも十分に評価し得るものであると確信した。

5. 機関誌の発行

「二期会通信」を年間4回(6月1日、9月1日、12月1日、3月1日)季刊として発行した。
「二期会会報」を年間4回(6月1日、9月1日、12月1日、3月1日)季刊として発行した。